

夏休みに求められる「内面的なゆとり」

校長 片山 亮一

オホーツク海と太平洋に張り出す高気圧により梅雨前線が停滞し、ぐずついた天気が続いております。どうやら梅雨明けが8月に持ち越されるようで、その宣言が待ち遠しく感じられます。

7月23日からの4連休に開催された「TOYAMA2020 中学校スポーツ交流大会新川大会」でも、多くの屋外競技が雨によって中断したり翌日に持ち越しとなったりしました。

それでも、それぞれの試合にエントリーした3年生を中心とする生徒たちは、大会が行われること自体に大きな喜びを感じ、生き生きと戦っていたように思います。

この大会は、目標としてきた県選手権大会や北信越大会等が中止となった中学生の心情を踏まえ、その活躍の場として新川地区のなかで新たに開催されました。どちらかというとならチャンピオンシップよりも「思い出づくり」を大切にしました。そのようななか、本校の生徒たちの最後まで頑張り抜く姿と競技そのものを楽しんでいる笑顔がこれまで以上に輝いて見えたのは私だけではないように思います。

さて、いよいよ例年とはまったく異なった夏休みがやってきます。

私自身の夏休みの思い出といえば「カブトムシ」。自宅のすぐそばを流れる神通川の土手に出向き、樹液が出ている木を探してカブトムシやクワガタを捕まえていました。よじ登ろうとした木の枝が折れて擦り傷を負ったり、手を伸ばした先で待ち構えるアオダイショウに肝を冷やしたりと、様々に体感できた小学校の夏休みは、私に「たくましさ」を与えてくれました。

しかし、中学生の頃の夏休みとなると、実はほとんど記憶がありません。

所属する吹奏楽部のコンクールは9月下旬であったので、夏休み中にそこまで練習に追われることもありませんでしたし、今とは違って学習塾から届く夏期講習のダイレクトメールに心を惑わされ、両親から必要以上に叱咤激励されることもありませんでした。

今思うと、本当にゆったりした、ゆったりできた夏休みでした。

今年は、4月からの臨時休業で進められなかった授業を確保する方策として、どの自治体でも夏休みが短縮され、立山町でも例年のほぼ3分の1にあたる12日間となっています。

ようやく得られる貴重な夏休みですから、理科の自由研究の提出を希望者だけにしたり、夏休みの課題そのものを減らしたりするなど、学校でも配慮しているところです。

どのように考えても、ゆったりと何かに向き合う時間といった「物理的なゆとり」を生み出すことは不可能に近いと思われまふ。

ぜひとも、新型コロナウイルス感染症による様々な制約のなかで誠実に頑張りを重ねた子どもたちへのご褒美として、少しでも「内面的なゆとり」を感じつつ、心の栄養が十分に得られる12日間になってほしいと願うばかりです。

ご家族で食事を共にするといった何気ない関わりが、子どもたちにとっては最も大切なかもしれません。



8～9月の主な予定



8月 6日(木) 体育大会結団式、選手決め
7日(金) 学友区会、1学期終業式
8日(土) 夏季休業(～19日)
10日(月) 山の日
11日(火) 学校閉庁(～17日)
20日(木) 2学期始業式、給食開始
22日(土) 古紙回収(～23日)
27日(木) 個別懇談会(～31日)

9月 4日(金) 体育大会予行
8日(火) 体育大会(雨天順延/給食あり)
12日(土) 新川地区新人大会(陸上競技)
15日(火) 学校納金口座振替日
19日(土) 新川地区新人大会(～20日)
21日(月) 敬老の日
22日(火) 秋分の日

※ 期末考査の答案は1学期中に返却しますが、通知表は8月下旬の個別懇談会でお渡しする予定です。

避難訓練でも成功体験を

6月23日(火)の4限に、第1理科室からの火災発生を想定して避難訓練を行いました。新しい学年になって初めての避難訓練でしたが、どの生徒も真剣に臨み、素早くグラウンドに避難することができました。

生徒たちは、教頭先生の「今日のように真面目に行動して成功体験を積んでおくことは、自分の命を守るための大切な一歩です」の言葉をしっかりと受けとめていました。

【生徒の感想より】

- ・ 私語もなく真剣に素早く動き、場にふさわしい集団行動をとっている上級生の姿に驚きました。私も自分の命は自分で守ります。
- ・ 人が避難するときは「本能的なもの」と「学習したこと」がもとになっていることを初めて知りました。自分の中で「学習したこと」を少しずつ増やしていきたいです。
- ・ みんながスムーズに避難するためには、自己中心的な行動をしないことが大切です。本当に避難が必要になったら、車いすや体の不自由な人を積極的に助けてあげようと思いました。



しっかりと放送を聞きとり、素早く避難する生徒たち



確実に進められる人員報告

新しい形で意見交換 前期生徒総会

6月24日(水)の午後に生徒総会を開催しました。今回は「密」の状態を避け、生徒会本部役員と専門委員長、発言者だけがランチルームに集まって質疑応答等を行い、他の生徒はその中継の様子を教室のモニターで視聴する形となりました。

『SWITCH～切りかえよう！意識・生活・雄山中～』をスローガンに、生徒会本部と各専門委員会から提案された活動のねらいや内容について事前に学級で話し合い、そこで出された質問や修正案を学級の代表者が持ち寄り、活発に意見交換がなされました。

質疑応答の後は学級ごとに採決し、それぞれの活動計画が賛成多数で承認されました。

これまででは、よりよい学校を目指す決意を込めて全校で校歌を斉唱していましたが、今年はそれができないので、3年生の有志によって事前に撮影された校歌の映像が流されました。

1年生を交えて全校で校歌を歌える日が待ち遠しいです。



様々に質問する代表生徒



誠実に答弁する専門委員長

「こころ」で受けとめよう～SOS教育

7月に入り、「困ったときのSOSの出し方」について、3年生は学年集会で、そして2年生は学級ごとに、改めて確かめ合いました。

講師には東部教育事務所の白井修之先生をお迎えし、ストレスを和らげる方法、本当に困ったときの「助け」を求めることの大切さ、周囲からの「SOS」への関わり方等について、スライドやミュージックビデオ、ロールプレイ等を交えながら分かりやすくお話していただきました。

悩みや不安を一人で抱え込まず、誰かに伝えることができる強さと、周囲からのメッセージを適切に受けとめる優しさの両面を大切にしてほしいものです。



「SOS」には強さと優しさを

7月13日から3日間にわたって開催しました学年懇談会には、多くの保護者の皆様のご出席をいただき、本当にありがとうございました。

学習参観やPTA総会、家庭訪問等ができないために、学校生活の様子や今後の見通しについて十分にお伝えすることができないままでおりましたが、ようやくその機会を設けることができました。

保護者の皆様と懇談させていただいた学年スタッフのほうが、かえって大きな安心感をいただいたように感じております。

